

『大腸がん治療に関する診療動向調査』について

ガイドライン委員会では、大腸がん診療の均てん化（底上げ）ならびに大腸がん患者さんの治療成績の向上を目的に、その第一段階として『大腸癌治療ガイドライン』の作成・普及に努めて参りました。しかし、実際に実地臨床においてどのような診療が行われているか、ガイドラインの刊行に伴い診療の内容が変化しているかについては、把握・検証が行われていないのが現状です。

そこでこのたび、大腸癌研究会の会員施設を対象に、診療内容に関する調査を実施することといたしました。

● 調査の方法

調査を行う施設： 大腸癌研究会に参加する施設（医療機関）のうち約100施設
対象となる患者さん： 2001年1月～2010年12月に、上記の施設で手術を受けた
ステージⅡ・Ⅲ大腸癌の患者さん

調査項目：手術年、性別、年齢、病変の部位、ステージ、リンパ節郭清度、術後補助化学療法

調査データは、個人を特定する情報をいっさい含まない形で、研究事務局に集められます



日本全国の医療機関から集められたこれらの情報を分析し、

- ① 標準的治療とされる「D3リンパ節郭清」が実際にどのくらい行われているか
- ② 術後補助化学療法が行われる割合は、この10年間でどのように変化しているかなど、日本の大腸がん治療の実際の動向を把握することができます。

この調査結果は、今後標準治療のさらなる普及を進めるにあたり大変役立つ情報となります。

● 調査期間

2012年3月～2012年12月31日

● 調査の対象となる患者さんへ

1. この調査で集められるデータは、カルテ等 あなたが治療を受けた医療機関にすでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。
2. 事務局に集められた情報から、あなた個人が特定されることはありません。
3. この研究の結果は、学術雑誌や学会にて発表し、大腸がん診療の進歩に役立てていくこととなりますが、公表する際にも個人情報を使用されることはありません。
4. この調査は「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して行います。大腸癌研究会の倫理委員会において、この調査の対象となった方の不利益にならないことや医学の発展に役立つ情報が得られることが確認され、承認を受けています。

● この調査への協力は任意です。

この調査で使用するデータは、カルテ等 あなたが治療を受けた医療機関に、すでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。そのため、患者さんお1人ずつのこの調査へのご協力の意思をあらためてうかがわずに、この「お知らせ」の掲示を以て、患者さんのご同意をいただいたものとして実施されます。調査の趣旨をご理解いただき、この調査にご協力を賜りますようお願いいたします。

この調査でのデータの使用を希望されない場合や、途中からデータの使用取りやめを希望される場合は、下記の「お問い合わせ先」にご連絡ください。

● お問い合わせ先

この調査は、大腸癌研究会ガイドライン委員会が研究事務局を担当しています。

調査実施責任者：石黒めぐみ（東京医科歯科大学大学院 腫瘍外科学分野）

お問い合わせ先

大腸癌研究会事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町KSビル

電話 03-3263-8697 FAX 03-3263-8693 （平日9時～17時）

E-Mail: jscrc@secretariat.ne.jp